

2020 年度グローバル会計学会賞

島永 和幸著『人的資本の会計—認識・測定・開示—』

(同文館出版, 2021 年 3 月 30 日刊行, 302 頁, 3,900 円)

【推薦理由】

本書は、製造産業型経済から知識集約サービス型経済への産業構造の変化のもとで、持続的競争優位の源泉をなす人的資本に焦点を当て、人的資本の認識・測定（評価）・開示はいかにあるべきかを、理論・実証の両側面から体系的に検討することを目的としたものであり、この分野でのパイオニア的成果ともいえる斬新な研究となっている。本書の意義は、とくに次の3点にある。

第1は、人的資本の会計問題は、従来、知的資産会計や無形資産会計等の一環として研究されることが多かったが、本書は、財務報告の観点から、人的資本それ自体のもつ固有の会計問題を多面的に解明しようとしている点である。

第2は、人的資本会計に関する検討を貸借対照表上での認識・測定問題にとどめることなく、国内外の先行研究を踏まえて、人的資本に係る非財務情報開示の拡充化の可能性と方法を理論的に分析している点である。

第3に、文献渉猟に依拠した理論研究に加えて、わが国企業における人的資本情報開示に関する詳細なアンケート調査を通じて、わが国での開示実態と課題を明らかにしている点である。

以上から、本書は、人的資本会計の多面的研究という新たな研究分野を切り拓くものであり、斬新性と社会的波及効果を兼ね備えた研究であると評価することができる。よって、本審査委員会は、本書に対して学会賞を授与するものである。

一由 俊三著『マーリーズ・レビュー研究—普遍的租税制度への接近—』

(税務経理協会, 2020 年 12 月 14 日刊行, 308 頁, 4,900 円)

【推薦理由】

本書は、所得再分配の観点から、租税制度の「富と所得の再分配機能」に注目し、英国の財政研究協会が公表した「マーリーズ・レビュー（マーリーズ報告書）」（2010—2011）に基づいて、「普遍的租税の枠組み」を構築するとともに、わが国税制改革への政策的提言を行ったものである。本書は、とくに次の3点において特徴を有し、評価される。

第1は、「マーリーズ報告書」を手がかりとして、所得課税制度と社会保障給付制度との連携による所得再分配を図ろうとしている点である。丹念な検討に基礎づけられた本書の最適・公平な税制の制度設計に係る理論展開と主張は斬新かつタイムリーであり、「普遍的租税の枠組み」の創出という高邁な視点を提示している点はとりわけ高く評価できる。

第2は、わが国では未だ先行研究が乏しい英国租税制度に関して、所得課税、貯蓄課税、消費課税など税制改正のあり方を幅広く、かつ体系的に論究し、英国課税の固有の考え方や税制の特徴と課題を緻密に分析し、最新の優れた英国課税制度と理論の総合的研究をなしている点である。

第3は、本書の議論が英国租税制度に関する制度・政策研究にとどまらず、「マーリーズ報告書」の知見を踏まえて、格差解消を見すえたわが国現行租税制度の改革・改善の方向と方策までも提示しており、ユニークな日英比較研究をなしている点である。

以上から、本書は、斬新かつ適時的な視点に基づく優れた理論的・制度的研究の成果を集成したものであり、その成果を踏まえて示唆に富む具体的な政策提言を行っている点で、グローバル会計研究への貢献が極めて大であると評価することができる。よって、本審査委員会は、本書に対して学会賞を授与するものである。